

平成 23 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 千原 美重子

最終学歴	京都大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学	
取得学位	教育学修士	
所属学会	日本心理臨床学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本学生相談学会、関西心理学会	
専門分野	臨床心理学、特にスクールカウンセリングなどの学校臨床や、発達に伴う危機を通じた行動発達のプロセスを重視する発達臨床に関する研究	
研究課題	スクールカウンセラーの発達支援に関する実証的研究～スクールカウンセリングのスタンダード構造と自己評価の試み～	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学応用実習Ⅰ（前期） ・臨床心理学応用実習Ⅱ（後期） ・心理学実験（後期） ・発達臨床心理学（前期） ・コミュニティ心理学（後期） ・臨床心理学演習Ⅰ（前期） ・臨床心理学演習Ⅱ（後期） ・臨床心理学演習Ⅲ（前期） ・臨床心理学演習Ⅳ（後期）
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・社会臨床心理学演習Ⅰ（Ⅲ）（通年） ・社会臨床心理学演習Ⅱ（Ⅲ）（通年） ・臨床心理学基礎実習（通年） ・臨床心理学面接特論（前期） ・臨床心理学特論（前期） ・学校臨床心理学特論（後期）
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・人間論Ⅲ
【研究上の特記事項】	奈良大学研究助成を受けることで、学校臨床や発達臨床の研究をする機会を得た。また、心理臨床家は、研究のみならず、アセスメント、面接、地域臨床支援活動をする必要があるので、幅広い領域の専門家との連携を行うことで研究が進んできた。ドメスティックバイオレンスを現場で対応している専門家や、スクールカウンセラー、青少年問題に関わっている人、ボランティア活動に関わっている人など多方面の方々の協力を得ることで研究ができる分野であり、今後とも学内外の方との連携を強めていきたい。	
【教育上の特記事項】	地域支援活動や他機関との連携を行うことで、現場の知識を得ることができ、学校臨床心理学特論や発達臨床心理学、コミュニティ心理学等の講義で生かされてきている。ボランティア活動の推進を図る地域連携教育研究センターの研究会などを行い、学生や院生の地域支援活動を教育に生かす方向で考えている。教育に関しては、毎回レジュメを作成し、ディスカッションなどを通して、双方向性のある授業になるよう心がけている。またゼミではシャトルカードを利用、学生の学習の習熟度を考慮している。	
【社会的活動】	奈良県情報公開審査委員、奈良県青少年問題協議会委員、滋賀県臨床心理士会会長、滋賀県スクールカウンセラー・スーパーヴァイザー、滋賀県DV相談支援の手引き策定委員会委員長、宮城県震災緊急支援スクールカウンセラー、高の原カルチャーサロン講演「虐待を防ぐ家族への支援の在り方」、追手門学院大学地域支援心理研究センター講演「幼児期・学童期を対象とした発達障害への支援」	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	奈良大学臨床心理クリニック所長、学生相談員、人権問題委員会委員、総合研究所委員会委員、紀要編集委員会委員、地域連携教育研究センター事業1責任者	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(学術論文)				
①地域文化とスクールカウンセリング	単著	平成23年11月	子どもと学校の臨床 5 遠見書房	11-19ページ、スクールカウンセリングは各学校にSCとして派遣されて活動するが、学校の文化は多様であり、学校文化の理解を行うことが必要である。そのうえでその固有な文化を尊重しながら、児童生徒、保護者、教員の支援やコンサルテーションを行うことが今後ますます重要となることを事例を挙げて考察した。
②不登校を生きる子どもと親の世代性の意味—事例を通して中年期の心理・社会的危機を再考する—	単著	平成24年3月	奈良大学臨床心理クリニック紀要 4	I-9ページ いじめから不登校になった子どもを持つ母親との面接と、学校へのコンサルテーションを行うことで、学校で心理教育を実施したことにより、子どもは登校をすることができた。中年期の母親が自身を物語ることや学校での取り組みが必要であることを事例を挙げて考察した。
③スクールカウンセラーの発達支援に関する実証的研究～スクールカウンセリングに関する発達臨床心理学的アプローチ～	単著	平成24年3月	奈良大学総合研究所報 20	83-88ページ スクールカウンセラーの保護者支援に関する研究と、スクールカウンセリングの構造に関するスタンダード作成の試みに関する研究、地域文化とスクールカウンセリング～心理臨床におけるパラダイムの変換、の3部に分けて論じたものである。
④				
⑤				
(学会発表)				
①スクールカウンセリングモデルの発展に向けて～ニーズのアセスメントからモデルの展開へ	共著	平成23年8月	第16回学校臨床心理士全国研修会自主シンポジウム龍谷大学	指定討論者 スクールカウンセリングにおいてモデルを構築し、誰にとっても菓子的な仕事内容を公開するためにアセスメントを行い、パンフレット作成について今後の課題について討論をした。

<p>②スクールカウンセリングの構造に関するスタンダード作成の試み～調査研究結果から基本成分のリーダーチャートによる図示</p> <p>③いじめ等に心に傷を受けた児童生徒への支援の在り方～学校問題解決支援への他機関連携の試み</p> <p>④発達障害児の保護者が教員に与える影響—コンサルテーションを通じた分析</p> <p>⑤</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成23年9月</p> <p>平成23年10月</p> <p>平成23年11月</p>	<p>日本心理臨床学会第29回秋季大会、高等発表福岡国際会議場</p> <p>日本人間性心理学会第30回大会 愛知教育大学</p> <p>関西心理学会123大会 京都学園大学</p>	<p>今までのスクールカウンセリングについての研究からスタンダードな構造を作成するためにリーダーチャートを用いて図示する試みについて発表を行った。</p> <p>いじめの解決には、学校のみならず、保護者、教育委員会、スクールカウンセラーなど他機関の職種がケース会議等を通して解決する事例を報告したものである。</p> <p>発達障害児の保護者と教師がスクールカウンセラーと共に同席面接を繰り返す中で、教師が保護者から大きな影響を受け、児童への理解を深め、教育指導に大きな変化を示すことをコンサルテーションの事例を発表したものである。</p>
<p>(その他)</p> <p>①子育て支援を考える～他機関連携から見えてくる子育ての不安・しんどさ・楽しさ</p> <p>②学生相談の多様なセーフティ・ネットの構築～学生相談における援助要請行動を考える～</p> <p>③ドメスティックバイオレンス（DV）相談支援のてびき初めて相談を受けるときの対応から支援の基本</p> <p>④</p> <p>⑤</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p>	<p>平成24年3月</p> <p>平成24年3月</p> <p>平成24年3月</p>	<p>地域臨床実践研究会報告書</p> <p>奈良大学学生相談室報告書</p> <p>滋賀県</p>	<p>47-51ページ 奈良大学地域連携教育研究事業1で行った公開シンポジウムでの話題提供を行った内容をまとめたものである。親が子を育む（羽含む）ことの意味、親の子育てのアンケート結果から喜ぶや悩みについて考察したものである。子ども人権を高め、保護者の子育てへの満足度を高める支援を考察する必要性を論じたものである。</p> <p>33-39 近年大学を取り巻く状況は非常に流動的であり、入学してくる学生も多様化している。そうした中で、学生相談が担うべき課題はますます大きくなっている。相談室のみならず、教員による相談なども大きなウエイトを占めている。また、他大学でもカリキュラムの中で実施する正科での取り組みなどについて報告がなされている。今回は正科での取り組みに関して報告し、学生の援助要請について身近なところで把握することの重要性を論じたものである。</p> <p>多発しているDVについて命の危険と関わる場合があり、相談窓口の対応について現在相談窓口で第一線で対応している方々10人が手引きとしてまとめたものである。</p>